

増山三雪子

しけりあふ木の間の月の涼しさに

秋かとはかりあやしまれけり

月下のピアノ

東くめ子

ぼらの香たかき 花そのゝ

わか葉のこかげ さまよへば

つきにうかれて かなづらん

ベーターフェンの ムンライト

そなたのまどに きこゆなり

ひと本野菊

つねを

千代の光りも ちは方に

知られぬ野菊 ひと本は

かわるに早き 夕暮の

雨に怨みの 色みせて

さびしき野邊を いたはらぬ

よをあき風の つれなくて

かゝりし露も なにとなく

ひとりあはれの 物かもひ

瀧

瀧子

瀧といへば我日の本にては、那智の瀧、布引の瀧、

裏見の瀧、霧降の瀧などぞ大なる。されども、これ

らはふのれ見しことなれば、くはしきさまは得

知らず、只めでたき山水にてながめもすぐれたる

ことなど、ものゝふみにて知れるのみ。

小さけれども、ふのれのいとも親しきは紀伊國海

草郡の山にある鳴瀧なり。この山の麓には一の小

さき寺あり。寺の後を通りて山道をわくれば、道

の左右には楓樹いと多く茂れり。瀧は高からねど